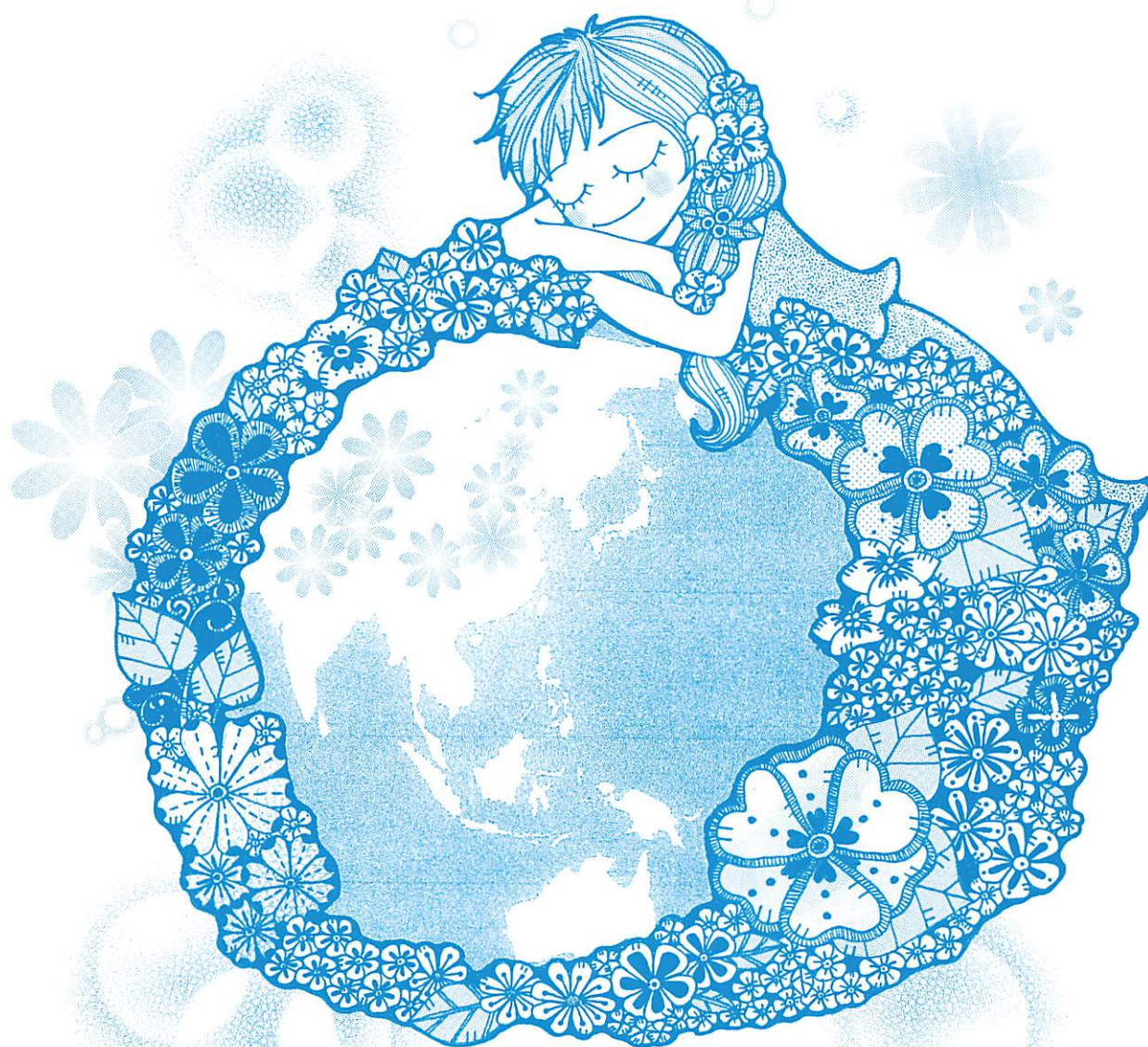


第29回 定期演奏会

女声合唱団

あい

～ 戦争と愛をうたうとともに ～



と き 2025年6月1日(日)

ところ スターピアくだまつ大ホール

後援／山口県合唱連盟 周南文化協会 周南市教育委員会

JCDA日本合唱指揮者協会 (株)シティーケーブル周南



ごあいさつ

本日は、ようこそ「女声合唱団・あい」第29回定期演奏会へお越し下さいまして誠に有難うございます。

毎年この時期に演奏会を開催してまいりました。気付けば、来年は第30回目を迎えます。これも皆様の暖かいご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。

オープニングは昨年に引き続きフルートの演奏とともに、ユーミンの名曲をハモろう会の皆さんの一緒に歌います。

第2ステージ「果実のうた」は、詩人・新川和江の詩で、母となった自身の体験をもとに書かれたものです。母でなければ見えない風景、母となって初めて発せられる納得の言葉が、今や合唱界で最も演奏されている作曲家、信長貴富による見事な女声合唱音楽となっています。

第3ステージは周南市で活躍されている男声合唱団「メール・ソレイネ」をゲストに迎え、十八番の曲をご披露していただきます。

そして最終ステージは、混声合唱曲「戦争と愛をうたう」をお届け致します。

今年は、戦後80年を迎えています。改めて「平和とは？」の問いに向き合いました。昨年豊中混声合唱団(指揮:西岡茂樹)によって演奏されたこの「戦争と愛をうたう」を私たちも歌います。「戦争が恋人や家族を理不尽に引き裂こうとしても、そこには決して消えることのない愛がある」(昨年の豊中混声定演プログラムより)と歌います。

しかし、今も、なぜ戦争は起こるのか・・・

では、どうぞ最後まで、ごゆっくりとお聞きくださいませ。

女声合唱団 あい 代表
野村文子

Program

指揮 西岡 茂樹
ピアノ 山城 麻衣

I 女声合唱・フルート・ピアノのための 「ユーミン・オールディーズ」より

瞳を閉じて
ユーミン・オールディーズ・メドレー
(ルージュの伝言～リフレインが叫んでる～あの日に帰りたい～ DESTINY)
フルート：杉村 有沙
賛助出演：  (あい)とハモろう会

詞・曲 荒井 由実
編曲 信長 貴富

II 女声合唱組曲 果実のうた

〈序〉赤ちゃんに寄す
1. ベビー・サークルのそばで
2. 男の子 あなたに
〈間奏〉かぶりのシャツ
3. 海への距離
4. 果実のうた
〈間奏〉螢ランプ
5. 亡き母に

詩 新川 和江
曲 信長 貴富

—— Intermission ——

III ゲストステージ 男声合唱団 メールソレイネ

早春賦
時代
栄光の架橋

詩 吉丸 一昌
詞・曲 中島 みゆき
詞・曲 北川 悠仁

曲 中田 章
編曲 林 光
編曲 信長 貴富
編曲 田中 達也

指揮：玉川 崇 ピアノ：山本 ゆかり

IV 混声合唱とピアノのための「戦争と愛をうたう」

1. あの人は彼方
2. 戦争の4年目
3. 帰還

詩 栗原 寛
詩 ヘルマン・ヘッセ
詩 竹内 浩三
曲 新実 徳英

訳詩 角田 栄一

賛助出演：「戦争と愛をうたう」を歌う会

Program Notes

I 女声合唱・フルート・ピアノのための 「ユーミン・オールディーズ」より



作曲家 信長貴富氏が、ユーミン（荒井由実）の比較的初期の楽曲から選び、ピアノとフルートを加えて編曲された楽しく素敵な女声合唱曲集です。昨年の演奏会でも2曲を演奏し好評をいただきました。

本日はこの曲集から昨年演奏していない2曲を、ピアノ、フルート、「ハモろう会」の皆さんと一緒に演奏します。

1曲目の『瞳を閉じて』は、ユーミンが長崎の離島 奈留島の高校生のために作った曲です。原風景は長崎の海だと思われそうですが、今日は穏やかで優しい瀬戸内の海が心に浮かぶような演奏ができたらと思います。“瞳を閉じて”聞いてみてください。

そして2曲目の『ユーミン・オールディーズ・メドレー』は、ユーミンの名曲4曲がメドレーとなったなんと多岐にわたる1曲です。

ぜひ楽しんでお聞きください。

II 女声合唱組曲「果実のうた」



この曲を書き始める時も、また書いている最中も、そして書き終わってからも、“うしろめたさ”のようなものが私の中にあった。詩人・新川和江が、母となった自身の体験をもとに書いた詩を選んだわけだが、「母であること」を切り取って組曲を構成してしまうことで女性を「母」という枠の中に押し込めてしまうことになるのではないかとという危惧が、“うしろめたさ”の要因である。今回選ばなかった新川の詩の中には、母であることと詩人であることの乖離、ねじれをうたったものもある。母であることはこの詩人の一部ではあるが全てではない。それでも敢えてこれらの詩を選んで組曲を編んだのは、母でなければ見えない風景、母となって初めて発せられる言葉が確かにあり、そこに女声合唱の必然が生まれるのではないかと思ったからだ。

おかあさんコーラスという言葉があるが、むしろ「おかあさん」という役割から解放される時間として合唱活動は機能しているのではないだろうか、と私は想像している。とはいえ、“主に母親または母親経験者で構成される合唱団”が日本には多く存在しているのだから、彼女たちにしか歌えない歌、歌われる必然性を持った歌があっても良いのではないかという思いもある。

冒頭から4曲目までは子どもに対する母の思いをうたった詩を配したが、終曲「亡き母に」だけは歌いかける対象が異なっている。「母であること」から解放された女性の言葉としてこれを作曲した。組曲全体を客観的に見渡すようにまとめることを意図している。

曲中のところどころに語り（ナレーション）が加わる。組曲全体を一人の人間のドラマとして聞かせたいというねらいからである。語りと音楽が一体感を持って進行するように工夫したつもりだが、実際に両者をシンクロさせつつ演奏するのは意外と難しいことかも知れない。幸い初演では俳優の金川裕美さんのナレーションによって、語りと音楽とが見事にシンクロした演奏を聴くことができた。そのように語り役を別に立てることも一案であるし、合唱団員が歌いつつ語りも担当するという方法も可能だろう。その際は、必ずしも組曲全体を通して特定の一人が語りを担当する必要はなく、たとえばフレーズごとに人を交替するというやり方も考えられるだろう。合唱団の個性を活かして様々に工夫していただければと思う。

信長貴富

（女声合唱組曲「果実のうた」より抜粋して転載）

III ゲストステージ 男声合唱団メールソレイネ



「早春賦」（吉丸一昌 詩／中田章 曲 1913年）

作詞をした吉丸一昌は、大分県臼杵市出身。東京帝国大学を卒業したのち、東京府立第三中学（現在の両国高校）の教師となり、後に東京音楽学校（現在の東京芸大）の教授になり、「尋常小学唱歌」編纂の作詞委員長に就任、日本の唱歌成立に重要な役割を果たしました。「早春賦」は吉丸が長野県安曇野（あづみの）の早春の寒さ、そして春の暖かさを歌ったといわれており、「日本の歌百選」に選ばれています。

「時代」(中島みゆき 詩／曲 1975年)

中島みゆきのセカンドシングル。脳出血で入院中の父が昏睡状態の中、出場した「第10回ポピュラーソングコンテストつま恋本選会」でグランプリを獲得し、同年開催の「第6回世界音楽祭」でもグランプリ。この賞金が、意識が戻らず逝去した父の葬儀費用に充てられました。このことからファンの間では「時代」は、輪廻転生がテーマになっているとされています。

「栄光の架橋」(北川悠仁 詩／曲 2004年)

2004年のNHK「アテネオリンピック中継」公式テーマソング。体操の男子団体総合で日本が、モントリオール大会以来28年ぶりの金メダルを決めた、冨田洋之選手の鉄棒の演技の際、NHKの刈谷富士雄アナの「伸身の新月面が描く放物線は、栄光への架橋だ。」という実況は、この曲を不動の地位に高めました。

Ⅳ 混声合唱とピアノのための「戦争と愛をうたう」

2023年7月に関西合唱団により委嘱初演された全3曲からなる「戦争と愛のバラード」がこの曲の原典であるが、いくつかの不都合により1曲目と3曲目のテキストが変更され、あらたに「戦争と愛をうたう」として改訂、この度、全音から出版されることとなった。

これまで、幾度となくご一緒させていただいてきた新実先生から「改訂版を初演しませんか？」との誘いをいただいたので、もちろん快諾、そして本日の初演となった。なお、原典を初演された関西合唱団さんも来たる10月の演奏会でこの改訂版を初演されることになり、出版譜には2団体による初演とクレジットされている。

1楽章「あの人は彼方」は、今回、栗原寛さんが新たに書き下ろされた詩。戦死者のパートナーの痛切な思いが綴られている。新実先生、曰く《失われた愛、だが抱き続ける愛、その歌を深々と、時々濃く歌いあげる。そんな曲になったと思う。それぞれの想いを込めていただければと願う》

2楽章「戦争の4年目」は、ドイツの詩人、ヘルマン・ヘッセ(1877 - 1962)の詩を、角田英一氏による訳で歌われる。新実先生、曰く《たぶん第一次大戦の4年目の1918年に書かれた詩だと推測する。「愛は消えぬ 愛は進む」というヘッセの言葉に決然たる意志を感じる。シューベルトの美しいメロディーを引用できたのは、僕にとってこの上ない喜び。》

二度の世界大戦の際、ヘッセは非戦を訴え、ドイツの社会から非難、疎外されたと言う。新実先生の作曲はそんなヘッセの孤独と愛を木訥に歌う。一方で、ヘッセはシューベルトの音楽をとても愛していたことから、新実先生は「美しき水車小屋の娘」の第5曲「仕事を終えて」および「冬の旅」の第11曲「春の夢」を曲中に引用されており、ヘッセの詩の音楽との絶妙な対比、融合をみせている。

3楽章「帰還」は、第二次大戦の末期、1945年4月、フィリピンにて23歳で戦死した竹内浩三の詩が使われている。浩三の遺骨・遺品は何一つ帰ってこず、ただ戦死の報だけが届いた。新実先生、曰く《「白木の箱で帰ってくる」、竹内浩三は「泣いている」。その浩三自身もフィリピンで命を落とすことになった。戦争とはなにか。》

この組曲の楽譜の解説には、新実先生の次のような激しい祈りの言葉が添えられている。

《世界の各地で戦乱が収まらない。悲しみ、苦しみを味わうのはいつだって、どこだって庶民だ。あなたや私だ。それなのに何故戦争は起こるのか。》

残念ながら芸術や文学にそれを押し留める力はない。しかし無力ではないと思いたい。戦争を作品に刻印し、批判し、より佳きものに向かう人間の心を鼓舞する。そのような役割をこの作品も持てたらと願わずにはいられない。同じ願いの皆さんに是非とも歌って欲しいと願っている。》

この思いに何とかお応えすべく、豊中混声は必死で取り組んできた。私たちの歌声が聴いてくださる皆様の魂と共振することを祈るばかりである。

西岡茂樹

(2024年豊中混声合唱団 第63回定期演奏会プログラムより転載)

Profile. Member



指揮者

西 岡 茂 樹

(にしおかしげき)

1955年兵庫県生まれ。合唱指揮を田中信昭、須賀敬一の両氏に師事。

高校より合唱と指揮を始め、1979年には大阪の老舗合唱団である豊中混声合唱団に入団、1989年より常任指揮者を務めている。

指揮活動は多岐に亘るが、その最大の関心は、『世界に誇ることができる日本固有の合唱芸術の創造』にあり、現代日本の創作家の意欲的な作品を、委嘱初演を含めて、とりあげ続けている。

これまでに、池辺晋一郎、一柳慧、伊藤康英、魚路恭子、木下牧子、鈴木英明、高田三郎、千原英喜[3曲]、寺嶋陸也[5曲]、徳山美奈子[2曲]、新実徳英、信長貴富、萩京子[6曲]、松下耕、三善晃[4曲]、矢田部宏、山中千佳子[2曲]、山岸徹（五十音順）の諸氏等への委嘱・初演を成功させている。

さらに、2001年には豊混の支援を受け、次世代の合唱人の育成のために豊中少年少女合唱団を創設、その必然的結果として生まれた両団のコラボレーションによる「芸術作品としての“大人と子どもが共に歌う合唱”」は、新しい潮流として大きな注目を集めている。現在、豊中混声合唱団、豊中少年少女合唱団、女声合唱団あい（山口県）、女声合唱団Stella（兵庫県三田市）等の指揮者を務める他、高校合唱部・大学合唱団・一般団体への客演指揮、各種合唱コンクールの審査員、合唱講習会の講師などを務める機会も多い。関西合唱連盟理事、大阪府合唱連盟副理事長、宝塚国際室内合唱コンクール委員会常任理事、「未来へつなぐ合唱の会」代表・音楽監督、21世紀の合唱を考える会「音楽樹」会員、日本合唱指揮者協会会員、奈良学園大学名誉教授。

ホームページ <https://www.shigekinishioka.com/>



ピアニスト

山 城 麻 衣

(やましろまい)

山口県防府市出身。

山口大学教育学部音楽教育選修卒業。

同大学院教育学研究科音楽教育専修修了。

これまでに藤尾尚子、山本ゆかり、成川ひとみの各氏に師事。

第37回山口県芸術演奏会出演。2009年「歌とピアノのタベ」、2013年、2023年「音の輪コンサート」開催。

2022年にこども色彩知育インストラクターを取得し、「音楽と色」をテーマにコンサートを開催。

現在、山口学芸大学非常勤講師、ピアノ講師として後進の指導を行う。

また県内を中心に合唱団専属ピアニストとして活動する他、ソロや室内楽等の演奏活動を行なっている。

山口オペラアカデミー講師。



フルート

杉 村 有 沙

(すぎむらありさ)

武蔵野音楽大学器楽科フルート専攻卒業。各方面で演奏活動、後進の指導をしている。

「戦争と愛をうたう」を歌う会

女声合唱団 ♪ (あい) は、団創立以来、女声合唱団でありながら演奏会に必ず混声合唱のステージを組んでいる。その年、混声で演奏する曲目をとって「…を歌う会」として、男声群、女声群を募集している。

地元山口県その他、福岡市、広島市、呉市などからの合唱団や個人有志の協力で、一度も途切れることなく混声合唱のステージを続けている。

♪ (あい) とハモろう会

「楽譜を読むのは難しいし…」 「忙しくて時間がないし…」

いろいろな事情があっても「あいと楽しく歌いたい！」という方々が、本日はユーミンの名曲をいっしょに歌います。

どなたでもご参加いただけますよ。

さあ、♪ (あい) と楽しくハモりましょう！

SOPRANO ALTO

清瀬由美子	藤井 幸子	渡辺 悦子	兼子真理子	中村資壽子	加藤 莉加
村井 尚子	善甫 直美	田中Marites真理子		西岡 恵子	横田 美樹
渡邊 里美	野村 文子	大谷 知子	年光 久美	賀藤 由夏	安野 洋子
川原貴美子	野村 聡美	西村 規子	渡辺 泰子	菅野 優子	武田 佳子
東 洋子	岡本紀代美	藤井 郁子	山平 増美	堀 倫子	中村 裕子
河野 智美	大草麻里子	春名ともえ			

「戦争と愛をうたう」を歌う会

三藤 茂治	山本 亮	鞆川 浩二	幾度 裕之	池田 能昌	辻 猛夫
井原 一夫	藤岡健太郎	佐々木一隆	松尾 寿人	玉川 崇	角谷 匡規
初田 英明	上田 雅紀	大石竜太郎	上西 快征		

♪ (あい) とハモろう会

原田 久子	藤井佳代子	石田 京子	Erica Escuadro
-------	-------	-------	----------------

男声合唱団 メールソレイネ

男声合唱団メールソレイネは1984年創立。周南市を拠点として地域に根差した活動を続けています。団員は20歳代から80歳代まで20余名。会社員、公務員、教師、自営業とさまざまです。不定期ながらコンサートをはじめ、合唱コンクールや全日本男声合唱フェスティバルにも参加、最近は徳山駅での「駅ピアノミニ演奏会」も折々に。男声合唱の醍醐味を楽しんでもらっています。

団名は山口方言で相槌を打つときに使う「それいね」に由来。団員の一人で、学生時代にグリークラブを指揮していた玉川崇さんの指導で毎週火曜日夜に練習しています。40周年を迎えたのを機に今年5月25日、周東町のパストラルホールで第18回演奏会を開催したばかり。次の段階へと一歩踏み出しました。



小池 敏治	宇田 裕典	升井 良市	鞆川 浩二	幾度 裕之	市川景一郎
岡 達征	高橋 武次	池田 能昌	門井 洋次	三藤 茂治	河繁 信夫
山時 春彦	西崎 博史	高橋 康之	真鍋 幹	森廣 稔夫	玉井 伸昌
中本 博竝	西村 好夫	角谷 匡規	初田 英明		

表紙の絵 吉岡 里笑
ステージ花 中村資壽子

この度の演奏会の為に、企業、法人、店舗、個人の皆様より協賛いただきました。
心より、感謝申し上げます。

(株)アイアセット
(医)明石整形外科医院
あんしんネット山口(株)
器と暮らし『栞』
a.c.two bees
エスプリ 1
(有)エリー
(有)オートテックケン
岡寺産業(株)
お花のsona
有限会社オフィスタナカ
ガーデンカフェ日
梨・ぶどう狩り かいたファーム
兼子産業(株)
亀屋薬局
有限会社夏林動物病院
(有)かわね保険事務所
韓国料理 ヘバラギ
下松市吹奏楽団
グッドラックヘイワ
健康院こだま
こやま歯科医院
佐藤医院
(有)山興地所
椎木内科循環器科
(株)シティケーブル周南
清水歯科医院

周南市民劇場
(有)周陽ガーデン
(医)真和会 松村医院
税理士法人スバル合同会計
田口ピアノ工房
田代工業(合)
年光教材販売有限公司
株式会社中所工業
(株)NATURE RESORT
野村眼科
野村コンタクトL.(有)
PH カフェ (piano&coffee)
(有)ファミリー
(株)福谷商事
ふじい歯科クリニック
ヘアークラフト美容室
防長建材(株)
ホテル青山
まどの会
無有の木
もみじや
山本塗装店
(有)山本モータース
(有)吉沢木工
米山運送(株)
医療法人緑山会 周南高原病院
医療法人緑山会 下松中央病院

内山 優子
大津 郁子
大寺 和美
掛川 潔
兼安 和子
川原 道生
喜多 茂子
久内 智子
田村 深雪
富田 篤志
仲 幸子
中村 逸子
中村 素子
中邑 裕二
西崎 博史
野村 昌司
弘中 敦子
藤井 英雄
山田 美和
山本 邦子
他 匿名 多数

女声合唱団



団員を募集しています。

いつでもどうぞお気軽にお越し下さい。
お待ちしております。



練習日 毎週火曜日 PM 7:30～9:30
毎週木曜日 AM 10:00～12:00
練習場所 徳山カトリック教会 (センター2階)

(練習日は変更の場合有り。確認してお越し下さい。)
ホームページ <http://www.ccsnet.ne.jp/~nmrfmk/>
連絡先 野村 0834-32-3422

